

令和7年度広島県における料理人集積業務提案書作成要領

この要領は、「令和7年度広島県における料理人集積業務」を委託するに当たり、総合的な審査により受託者を選定することを目的とし、提案書を作成するために必要な事項を定めるものである。

1 企画提案時の提出物

- (1) 表紙【別記様式1】：正本1部
- (2) 企画提案書：正本1部、副本8部
- (3) 見積書【別記様式2】：正本1部
- (4) 設計内訳金額：正本1部、副本8部
- (5) (2)及び(4)のデジタルデータ（PDF形式で5MB以内）

2 作成要領

(1) 一般事項

- ア 用紙は、原則A4版両面使用、縦置き横書き（横綴じ）とすること。ただし、図表等の表現の都合上、用紙及び記述の方法を一部変更することは差し支えないものとする。
- イ ページ番号は目次を除き通し番号とし、各ページの下部中央に印字すること。
- ウ 専門的な知識を持たない者でも理解できるように極力わかりやすい表現で記述すること。
- エ 審査の公正を期すため、提案書の副本には、会社名、住所、ロゴマークなど、プロポーザル参加者を特定できる表示を付してはならない。会社名を記述する場合は「当社」と記述すること。
- オ 提案内容は予算の範囲内で行うこと。
- カ 動画作成等において著名人を起用する場合は、事前に所属事務所の内諾を得ること。
- キ 提案書は50ページ程度までとすること。
- ク 別紙業務説明資料を参照すること。

(2) 企画提案書について

仕様書、評価基準を踏まえ、次のとおり記述すること。

(任意様式)

1-1 基本方針 <ul style="list-style-type: none">○ 県が示すコンセプト等を踏まえ、当業務の実施にあたっての基本的考え方、ポイントを記述すること。○ 県が示す目的を達成するための戦略を記述すること。
1-2 成果指標 <ul style="list-style-type: none">○ 仕様書に記載された項目の内容を踏まえて、より効果的な成果を得るための手法を明記して提案すること。また提案した企画を実施することで得られる成果を各柱ごとに明確に記載すること。
2-1 全体業務 <ul style="list-style-type: none">○ 全体計画及び進捗管理体制について記述すること。
2-2 将来の料理人育成について <ul style="list-style-type: none">○ 具体的なメディア露出戦略を記述すること。○ 対象とする小中学生にとって、提案がなぜ効果的なのか、その根拠を明確にすること。

2-3 ひろしま食文化アカデミーについて

- 想定する講師の選定理由について、講師の実績など具体的な理由を提示すること。
- オンライン化された全4回のプログラムの想定視聴者数を記載し、その根拠（集客戦略など）も明記すること。また対面カリキュラムについては、別途想定参加者数を記載することとし、その根拠も明記すること。

2-4 首都圏等の料理人誘致について

- 過去実施された料理人誘致ツアーとは一線を画す内容とすること。
- 広島県出身や縁のある料理人に積極的にアプローチするための手法を記載すること。

2-5 独自提案事項

- 事業目的を達成するために、仕様書で提示した3つの柱以外に自由提案がある場合は、記載すること。

3-1 業務の実施体制

- 業務全体を管理する者及びその他の業務従事者について、業務ごとに責任者、副責任者を記述するとともに、指揮監督のあり方や役割分担等を記述しすること。
- スタッフごとに、氏名・役職名・実施する業務内容を具体的に記述すること。
- 他の事業者等との連携を予定している場合は、その内容や効果を記述すること。

3-2 業務工程

- 当業務を行うにあたっての工程を具体的に記述したスケジュールを作成すること（作業の開始時期、終了時期、所要日数等）。

3-3 提案者の実績

- 提案者が過去3年以内に、国や広島県、他の自治体、民間事業者から受注し実施した類似の業務の実績を示すこと。なお、実績には以下の内容を記述すること。
 - ・ 予算などの規模感
 - ・ 提案によって達成された成果や効果